

2022年度第1四半期決算説明会
主な質疑応答

●全社

Q: 上海ロックダウンによる業績への影響を教えてください。

A: 上海ロックダウンにより4~5月に上海の主力倉庫から中国市場へ商品を出荷できなかったことで、第1四半期の売上収益には30~40億円程度のマイナス影響があった。上海ロックダウンによる部材調達への影響は軽微である。

なお、今回のオフィス・ホーム IJP 本体の年間販売台数の下方修正は、大半が半導体などの供給改善の遅れを反映したためである。

●オフィス・ホームプリンティング

Q: 第1四半期のオフィス・ホーム IJP 本体の販売台数は、前年同期比で19%減少した。一方、2022年度の販売台数は前期から10%増となる1,840万台を計画しているが、なぜ増やせるのか？

A: 半導体調達の改善が遅れており、上期の販売台数を4/28前回予想から下方修正したが、商品設計の変更などさまざまな施策により調達は徐々に進み、下期には供給制約の改善を見込んでいる。

Q: 今回の通期予想において、大容量インクタンクモデル本体の年間販売台数の引き下げ幅が、インクカートリッジモデルよりも大きいのはなぜか？

A: 使用している半導体の種類が異なり、調達状況も異なるため。エプソンとしては、引き続き、大容量インクタンクモデルの販売を伸ばしていくという戦略に変わりはない。

Q: オフィス・ホーム IJP の最終需要やチャネル在庫水準の見通しを教えてください。

A: 最終需要は、2020年前半のパンデミック直後からは沈静化してきているものの、各種調査データなどからも在宅勤務は一定程度定着していることが確認できている。こうしたことが下支えとなり、今後も急激な落ち込みはないものと予想している。

チャネル在庫は、依然として低水準であり、年度末に向けて不足解消を進めるものの、通常レベルには回復しないと予想している。

Q: インクカートリッジモデル本体は、第2四半期以降に生産を増加させると考えられる。これが、利益圧迫要因になることはあるのか。

A: インクカートリッジモデル本体は、大容量インクタンクモデルに比較すると採算性は良くないものの、既に、エプソンのインクジェットプリンター本体の大半は大容量インクタンクモデルであり、インクカートリッジモデル本体の影響は少なくなっている。

Q: 中国が外資のオフィス機器メーカーに対し、設計・開発・製造までの全工程を中国国内で完結させる新たな規制を検討しているとの報道があったが、これによるエプソンへの影響を教えてください。

A: 本件報道については承知しているが、現在、状況確認中。

今後、政府関係省庁、関係業界団体とも連携し、引き続き、本件の動向を注視しながら適切な対応を取っていく。

●マニファクチャリング関連・ウエアラブル

Q: マイクロデバイスの利益の貢献度が大きいですが、この状況は継続するのか。

A: 水晶、半導体とも、価格・数量を含めて長期契約を結んでいる。足元でも需要は強く供給が追い付いていない。当面はこのような状況が続くとみている。

Q: マイクロデバイスの主なアプリケーションを教えてください。

A: 水晶については、スマートフォン、民生/産業品、基地局・ネットワーク、車載向けとなどであり、特定のアプリケーションに偏っていることはない。スマートフォン向けは世界的な需要のダウントレンドにより弱含んでいるが、他のアプリケーションの需要が旺盛であるためカバーできている。

半導体については、エプソンの完成品向けと外販、ファブドリー向けでバランスをとっており、全てにおいて引き合いが強い状況。

以上